

団体名 森忠政公報恩会 鞍懸寅二郎研究会	
代表者 竹内 佑宜	記載者 飯島尚教
所在地(市区町村名のみ) 津山市	
活動目的 津山藩士 鞍懸寅二郎顕彰(出版事業)	
団体の紹介 森忠政公は1603年美作国に封ぜられて、津山城を築城し、松平家への改易まで美作地域を治めた。森忠政公報恩会は森公の顕彰と美作地域の発展に資するために設立された。 本源寺は森藩の菩提寺であり、鞍懸寅二郎は森藩とも縁故にあり、令和2年が鞍懸寅二郎没後150回忌にあたり、鞍懸寅二郎墓所も本源寺内にある。そこで、顕彰するための記念誌発刊等記念事業を行うこととなり森忠政公報恩会に鞍懸寅二郎研究会を設置した。	
助成を受けての活動内容 ①鞍懸寅二郎は幕末から明治にかけて津山藩外交の中心的な人物として活躍し、津山藩の難題解決へ献身した。歴史に埋もれた津山藩士・鞍懸寅二郎の足跡の概要と史料をわかりやすくまとめ、後世に伝え明日の郷土づくりへの一助としたい。このため、記念誌は郷土史の学習のため、学校、図書館、公民館等に無償で配布を予定している。 ②鞍懸寅二郎研究会(以下研究会)ではこれまで、史料の収集、現地調査、8回にわたる研究会を開いて約220頁の冊子としてまとめたが、コロナ禍により、編集・校正が大幅に遅れ現在最終校正を行っている。したがって、製本完成は2月末日を目途としている。(新聞報道・記念誌表紙等、別添) ③令和2年9月27日予定していた、森忠政公報恩会はコロナ禍により延期を余儀なくされ、鞍懸寅二郎150回忌記念式等行事は令和3年の秋にはコロナ禍の状況を見ながら予定されることとなった。(別添総会案内) ④マルセン財団からの援助については記念誌への掲載とともに、記念式行事において公表謝意を表する予定としている。	
助成を受けての成果 「史料が語る津山藩士 鞍懸寅二郎」はこれまで、新聞報道にも取り上げられている通り、市民、関係者からの高い関心も寄せられている。記念誌発刊を急ぎ広く市民に頒布するとともに、3月より教育関係団体(学校、図書館、公民館)等へ無償で配布し、今後の郷土史学習等に資したい。	
今後の活動の課題点 発刊がはコロナ禍により大幅に遅れているが、記念誌発刊は現在最終校正段階に入っており、2月末に発刊見込みである。	
問い合わせ連絡先もしくは、ホームページアドレス(加入希望の方などへのお知らせなど)	

※ このページは、財団ホームページや印刷物などで公表される資料として使用される場合があります。
A4用紙1枚程度におまとめください。(他の報告書との重複可)
写真・チラシ・パンフレット(PDFもしくは、画像)等を添付していただいても結構です。